





POWER!

2024年
4月
vol. **89**
令和6年(2024年)
4月20日発行
発行所 ●日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200
発行月 ●4月、7月、10月、1月

<http://www.yakuren.jp>

●日本薬剤師連盟四役一覧(任期:令和6年4月1日~令和8年3月31日)

								
●会 長 岩月 進 (愛知県)	●幹事長 川田 哲 (神奈川県)	●副会長 大澤 泰輔 (兵庫県)	●副会長 荻野 構一 (新潟県)	●副会長 丹羽 松弘 (愛知県)	●副会長 浜田 嘉則 (高知県)	●副会長 原口 亨 (福岡県)	●副幹事長 大原 整 (滋賀県)	●副幹事長 中原 靖明 (山口県)

令和5年度 定時評議員会開催される!!

令和6年3月27日(水)午後1時から「令和5年度定時評議員会」が東京・A P日本橋で開催された。加茂常任総務の司会により進められ、山本会長より「本日は、来年度の事業計画・予算を決めていただく、会長の選任も予定され新しい体制に向けステップアップしていただきたい」との挨拶があった。逢坂誠二衆議院議員、本田あきこ参議院議員、神谷まさゆき参議院議員の来賓挨拶の後、明石議長、畑澤副議長が登壇し、石井副会長より「最近の政治課題、次期都道府県評議員数」など、中原副幹事長より「参議院議員通常選挙活動助成金」について報告され、石井副会長による「能登半島地震支援」の報告の後、石川県薬剤師連盟



会長の中森ブロック総務からお礼が述べられた。報告並びに議案説明では、石井副会長より「会務並びに事業中間報告の件」「令和6年度事業計画の件」、荻野副会長より「令和6年度責任負担金賦課額・収入支出予算・借入金最高限度額の件」、石井副会長より「会長選挙・監事選挙の件」について説明が行われ、すべて承認された。その後、会長及び監事の選出が行われ、会長には岩月進氏、監事には内藤貴夫氏、内野悟氏、村松章伊氏が選出された。協議では、浜田副会長より「責任負担金の件」、川田幹事長及び担当役員より「本田あきこ中央後援会活動」についての説明の後、質疑応答が行われ、原口副会長の閉会挨拶で散会した。



会長就任にあたって
日本薬剤師連盟 会長 岩月 進
この度の令和5年度定時評議員会において、会長にお認めをいただきました岩月進でございます。
さて、日本薬剤師連盟会則第1条には、「日本薬剤師連盟は、会員相互の全国的協力により日本薬剤師会の目的を達成すること、その他薬事・薬業の振興に必要な政治活動を行うことを目的とする」とあります。日本薬剤師会の目的は多岐にわたりますが、その根底を為すものは昭和48年制定の「薬剤師綱領」や平成30年制定の「薬剤師行動規範」に示されたとおりであります。
改めて申し上げるまでもなく、我々薬剤師の仕事は、薬剤師の免許を使っ

て広く世間に貢献し、その成果を正しく理解してもらい、さらにはその評価が薬剤師の適正な処遇に結び付くことであろうと思います。
従って、薬剤師連盟の活動内容は、上記の目的達成のための政治活動の計画と実施、政治活動をより強固にするための薬剤師国会議員の擁立とその選挙対応、さらには、地方自治体の首長や地方議員の擁立とその選挙対応が挙げられると考えます。
薬剤師の免許を用いた仕事の多くは、法律や規則に縛られています。また免許というのは、文字通り、「免じて」「許す」であり、このことは規制当局の責任を「免じて」「薬剤師が「責任」を負うことを「許す」を表しています。ICT化やDX化の進展とともに、専門職の在り方やそのサービス提供

の在り方も大きく変わっていく時代がやって来ました。しかしながら、「薬剤師綱領」や「薬剤師行動規範」の精神は、大きく変わるものではないと確信しています。
水前寺清子の「365歩のマーチ」(作詞:星野哲郎)の歌詞に「幸せは歩いてこない、だから歩いてゆくんだよ」として「あなたのつけた足跡には、きれいな花が咲くでしょう」とあります。人に指示されて決まった仕事をこなすのではなく、自ら進んで一歩前に出る、そんな連盟活動を目指して行きたいと考えます。そして、これが実践できれば、受け継がれてきた連盟活動が大きな実を結ぶはず。会員の皆様方はもちろん、本連盟活動にご理解をいただける方々と共に、明るい未来に向けて前に進みましょう。

次期会長に岩月進氏を選任!!


風力計

今昔(私たちの世代)も変わりない事は多くあります。よく言われるのが、最近の若い人たちは政治に興味がないとか。これは今に始まった訳ではなく昔も同じだったと。若い時は何でも出来るし、やらなければいけない事も多くあります。学業や子育て、そして趣味にしてみたくさん挑戦できます。

ところが私(高齢者)の歳になると今まで出来ていた事が出来なくなり、多くあった趣味も段々減ってきたような気がします。休日などは一日中テレビのお守りをしてみたり、これではいけないと思いつつ時が過ぎていきます。お陰様でニュースや業界誌などは身近に感じるようになりました。正直、若い時は業界誌の存在すら知りませんでした。そのようなか、四十代半ばより国、県、市と色々な連盟活動にハマるようになり今は結構充実した毎日です。これから先、薬剤師のために何が出来るか体力と相談しつつ模索中です。

ここで若い世代の方達にお願いが一つ、二つ。仕事や子育て、趣味で忙しい中、私どものように連盟活動にハマらなくても良いです。面倒臭い事はお任せください。ただ少しだけ力を貸して下さい。それは自分達の未来を考えること、それだけです。毎年のように私達の業界にも大きな波が押し寄せます。非力な私にどれだけの余力があるかは分かりませんが、一薬剤師として新しい体制でも変わらぬ、後輩達の明るい未来の為に頑張っていきます。

今昔
日本薬剤師連盟 常任総務 小山 明俊



JPLフォーラム2024開催される!

Japan Pharmacist Ladies

20万本の花を咲かせましょう!!

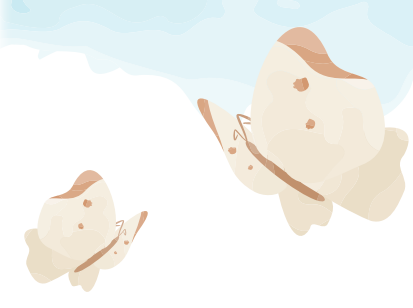
令和6年2月18日(日)午前11時より東京・AP日本橋においてJPLフォーラム2024が開催された。今年のテーマは『20万本の花を咲かせましょう』であり、都道府県薬剤師連盟の女性代表者47名、役員委員26名、来賓3名が参加した。司会は吉岡企画実行委員が担当し、初めに山本会長が挨拶され、続いて神谷政幸参議院議員、近藤由利子日本女性薬剤師連盟会長より挨拶をいただいた。

次に「あい・きぼう・これからの医療と薬剤師～わたしたちの思いを政策に反映するために～」と題して本田顕子参議院議員の講演があった。薬剤師としての本田議員の人柄が伝わった素晴らしい内容であった。

次に、『女性のコミュカで「本田あきこ先生」の魅力を深掘りする!』を主テーマとした座談会が行われた。橋本常任総務の司会で、本田議員及び3名の登壇者による質問形式で進められた。各グループからも質問等があり、大変盛り上がった座談会となった。

次に小屋敷総務によるグループディスカッションの趣旨説明と「参議院議員本田あきこの国会活動」の紹介があった。そして、6グループによる2時間のグループディスカッション「本田あきこを広めよう」がスタートし、終了後各グループから発表があり、各県に持ち帰り、活動に生かすことになった。

最後に、川田幹事長の総評の後、熊本県の高田良子先生のコールで閉会となった。



本田あきこ議員
特別講演

写真撮影

開会

来賓挨拶



座談会

グループディスカッション

総評・閉会



Aグループ

北海道・青森県・岩手県・宮城県・
秋田県・山形県・福島県



Bグループ

茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・
千葉県・神奈川県・山梨県・東京都



Cグループ

新潟県・富山県・石川県・福井県・長野県・
岐阜県・静岡県・愛知県・三重県



Dグループ

大阪府・滋賀県・京都府・兵庫県・
奈良県・和歌山県



Eグループ

鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・
徳島県・香川県・愛媛県・高知県



Fグループ

福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・
大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

次期診療報酬・調剤報酬改定は 報酬本体が引き上げに!!

令和6年度の診療報酬・調剤報酬改定に向けて、財務省から大幅な引き下げを要求されていたが、12月20日の厚生労働大臣と財務大臣による折衝の結果、次のように診療報酬・調剤報酬本体の引き上げ改定を勝ち取ることが出来た。

◆診療報酬 +0.88%

- ①うち②~④を除く改定分 +0.46%
各科改定率 医科 +0.52%、歯科 +0.57%、調剤 +0.16%
- ②うち看護職員、病院薬剤師その他の医療関係職種の引き上げのための特例的な対応 +0.61%
- ③うち入院時の食費基準額の引き上げ対応分 +0.06%
- ④うち生活習慣病を中心とした管理料、処方箋料等の再編等の効率化・適正化 ▲0.25%

大変厳しい財政状況の中、日本薬剤師連盟としては、物価高騰・賃金上昇、医薬品の供給不足への対応等の影響により保険薬局の経営状況が厳しいことを踏まえ、自民党の薬剤師問題議員懇談会の世話人及び会員議員を中心に度重なる陳情活動を展開してきた。その結果、薬価の引き下げが行われるものの、診療報酬・調剤報酬本体の引き上げ及び公平な各科の配分比率(1:1.1:0.3)が堅持されたことは、活動の成果であると評価できる。

連盟SNSを活用しよう!

令和6年1月17日(水)に全国SNS実務担当者会議が初めて開催されました。SNSとはソーシャルネットワーキングサービスの略で、インターネット上で交流できる仕組みです。X(旧Twitter)やFacebook、Instagramなど、使う人の用途によってさまざまな種類がありますが、共通した特徴は他の人と繋がり、情報を共有できることです。連盟活動に限ったことではありませんが、現在では多くの情報発信において広くSNSは活用されています。



政治活動における発信にもSNSは非常に有効とされており、本田顕子参議院議員、神谷政幸参議院議員も利用しています。

日本薬剤師連盟も「薬連タイムズ」など、SNSを利用し情報発信しておりますが、各都道府県薬剤師連盟においても従前からの活動に加え、SNSを利用した活動を行うこととされ、実務担当者間での情報共有を目的にWebにて会議が開催されました。

会議においては、政治活動におけるSNS活用のルール等の解説とともに、すでにSNSを通じた発信を積極的に行っている岡山県・鹿児島県・福岡県の各連盟の実務担当者から具体的な運用事例の情報共有が行われました。その他の都道府県薬剤師連盟においても対応可能などからSNSを開設し、運用してほしい旨の依頼も行われました。

ぜひ、皆様も本田顕子議員、神谷政幸議員のSNSのフォローと共に、ご自身の都道府県の連盟SNSや「薬連タイムズ」等もフォローいただき、リポストやコメントをお願いいたします。

オレンジ日記

参議院議員・薬剤師 本田顕子



オーバードーズ(OD)への対応

春めいた陽気の中を舞う桜の彩りが新たなスタートをお祝いするように映る季節を迎えました。

議員会館や国会議事堂周辺で挨拶まわりをされる方々の姿や、参議院本会議での予算案の採決を通じて、例年、新年度の始まりを感じています。

新年度はモチベーションを高めやすい反面、生活環境や職場環境の変化が心身に影響を与えることがありますので、各自の注意と周囲への配慮が必要です。

日常の苦勞・苦痛、対人関係のトラブル、孤独などの個人を取り巻く困難や不安が薬物乱用の要因の一つと言われている中、救急搬送事例や中毒情報センターへの相談事例の調査から、若年層によるOTC医薬品の過剰摂取(オーバードーズ;OD)への対応が急務であることが分かります。

麻薬・覚醒剤などと比べて、若年世代にとって手が届きやすいOTC医薬品のOD対策のため、厚生労働省では薬機法改正を念頭にOTC医薬品の適正な販売方法の検討を進めています。

他方、ODを根本的に防ぐには、ODの危険性と適正使用の重要性への理解を広く促すことが大切であり、厚生労働省と文部科学省とが連携して啓発・教育を推し進める役割を担うべきと考えています。

そのような観点において、厚生労働省が令和5年補正予算として、学校薬剤師等の協力を得て啓発・相談対応を実施するために1,600万円を計上したことの意義は大きく、文部科学省の小中高生向けの健康教育関連予算との連携可能性について確認作業を続けます。

薬の正しい使い方や薬に関する相談先があること等を未来ある青少年に伝えるため、両省を知る立場としてOD防止の橋渡し役を務めてまいります。

政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷政幸



能登半島地震の被災地を視察しました

令和6年能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に、ご家族や被災された方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

令和6年3月11日、能登半島地震による被災状況と薬剤師の活動を視察するため石川県を訪問しました。視察には石川県薬剤師会副会長の橋本昌子先生と日本薬剤師会災害対策委員会委員長の越智哲夫先生に同行していただきました。

主な内容は以下の通りです。金沢で石川県病院薬剤師会の森戸敏志会長と面会后、穴水町の薬局を訪問し原将充能登北部支部長と石川県薬剤師会の竹端裕常務理事に面会。その後、公立穴水総合病院、珠洲健康増進センター、珠洲市総合病院を訪問し発災からの活動を伺い、いしかわ総合スポーツセンター(1.5次避難所)を訪問しました。

特に印象に残ったのは、穴水町で伺ったお二人の先生のお話でした。薬剤師は持参薬を見れば瞬時に現在の手持ち薬から代替薬が提案できる。厳冬期の避難所は締め切った環境になるため、CO2モニターを利用した換気指導や感染対策が重要。地域の薬局や薬剤師は減少しており、自ら被災しながらも、災害活動は様々な役割を少ない人数で対応してきたとお話を伺いました。

元々、医療従事者が少なかった上に、地震の影響で道路が寸断された半島の地理的条件もあり、勤務する施設にたどり着けなかった職員も多かったと聞きました。その中で、被災しながらも懸命に活動された石川県薬剤師会の先生方、また応援に駆け付けた日本薬剤師会、日本病院薬剤師会の先生方、医薬品供給にご尽力いただきました卸の皆様へ改めて敬意と感謝を申し上げます。今回の視察で得た知見をもとに政策や国会等での発言を通じ、一日も早い復興を後押しすると共に、国土強靱化に取り組んで参ります。結び、今回の視察にご尽力いただきました関係者の皆様に御礼を申し上げます。



編集後記

新たな歩み

1月1日に発生した令和6年能登半島地震における日本薬剤師会主導による支援は3月中をもって終了した。発災の翌週から支援薬剤師の派遣が始まり、非常に多くの支援薬剤師やモバイルファーマシーが現地入りし、支援活動を行なった。

過去にも東日本大震災や熊本地震など、いくつもの支援活動は経験しているが、今回は地元でのチームビルディングをはじめとした後方支援での関与となったが、日頃からの準備の必要性を強く感じた。会としての備品もそうであるが、それとともに細かな部分での役割等が多少曖昧であり、特定のメンバーに負担がかかったり、支援に手をあげている方々にご依頼できなかった事例も少なからずあった。

災害は、いつどこで起こるかかわからない。また、その時その時で状況が異なる。つまり、その場での対応力が必要になると思われるが、それを担保するのが日頃の準備と訓練ではないだろうか。この経験を有効に活かしていくことも必要だと感じている。

一方、私の息子も能登(輪島市)在住であったが、地震発生時は帰省中であつたため直接の被災は免れた。後日、息子と片付けに現地を訪れ被災状況を目の当たりにすると心が痛んだ。4月より仕事の関係で、後ろ髪をひかれつつ他県へ引越す息子と、現地が落ち着いたら「必ず、また来よう」と約束した。

(T・H)

広報委員

原口 亨、石井 甲一
浜田 嘉則、橋本 昌子
和泉啓司郎、小屋敷淳子
堀越 博一、渡邊美知子